

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Obstetrical Complications in Women with Endometriosis: A Cohort Study in Japan

和文タイトル: 子宮内膜症が産科合併症に及ぼす影響

ユニットセンター(UC)等名: 鳥取UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLoS One

年: 2016 月: 12 巻: 11 頁: e0168476

筆頭著者名: 原田 省

所属UC名: 鳥取UC

目的:

子宮内膜症患者の約半数は不妊を合併します。子宮内膜症合併不妊では生殖補助医療(ART)を選択されることが多いこと、またARTにより産科合併症が増加することが知られています。本研究は、子宮内膜症の既往を持つ妊婦における産科合併症の頻度を検討することを目的としました。

方法:

エコチル調査の第1次一部固定データを利用しています。全国のエコチル調査ユニットセンターに登録後妊娠を終了した9,186例が対象です。子宮内膜症既往の有無については、質問調査票に記載された情報より確認しました。コーディネーターが産科合併症および分娩結果を分娩施設の診療録から抽出しました。本研究は倫理審査の承認を取得したエコチル調査の研究計画に従いエコチル調査コアセンターの許可を得て実施しています。

結果:

子宮内膜症の既往がある妊婦は330例で、8,856例はその既往はありません。前者では帝王切開が85例(25.8%)、ARTによる妊娠が29例(8.8%)と後者に比べて多く、産科合併症の頻度が高い(オッズ比=1.50)との結果でした。年齢による産科合併症への影響およびARTによる妊娠例を除外した場合、子宮内膜症患者では早産期の前期破水(OR=2.14, CI=1.03-4.45)および前置胎盤が有意に多い(OR=3.37, CI=1.32-8.65)結果でした。

考察:(研究の限界を含める)

本研究は、子宮内膜症によって前置胎盤が増加する機序まで解析していません。また、術後の病理組織検査によって子宮内膜症を診断されていない症例も対象となっています。

結論:

子宮内膜症の既往がある妊婦は、pretermPROMと前置胎盤の頻度が増加することが示されました。